



crossing cafe



Vol.32

2026.3.1

発行:スペースベン
毎月1日 324部発行
(webでも配信中)

spacebenfans.com/kawaraban.html

TOPIC

第17回 八戸ダンスプロジェクト

ダンスを愛する若者が集い
自分の可能性を信じて自分の作品を踊ります。
講座・ミーティングを通じて、インプットを重ね
パフォーマー・スタッフ全員で作上げたステージです。

2026年 **3月14日(土)** 18:30開演
・**15日(日)** 13:00開演
16:00開演
(3回公演・各30分前開場)

会場/スペースベン

チケット/一般 1,200円(当日1,500円)
高校生以下 700円(当日1,000円)

各回
40席限定

応援チケット/300円

300円の協賛金として運営に活用させていただきます。
応援チケットのみでは入場出来ません。

- 席数は40席程度ですので、チケットはお早めにお求めください
- 当日券は販売しない可能性があります

詳細はこちら <https://spaceben.com/danpro-info.html>

- チケットは出演者・スタッフからお求めください
- <https://t-dv.com/8danpro17>でもチケット・応援チケットが購入できます

主催/八戸ダンスプロジェクト実行委員会 問/八戸ダンスプロジェクト事務局 昆 ☎090-5187-9144
後援/八戸市・八戸市文化協会・青森県洋舞連盟・コミュニティラジオ局BeFM

〈スペースベン3月の予定〉

FANS 予定 第1674~1677回

毎週金曜日の夜7時30分から約30分の芝居やダンスやライブを楽しむ企画です。
一般前売500円/大学生以下前売200円(当日それぞれ100円増)

「だべり場」「かたり場」「ほだれ場」随時開催しています

〈Dance Lesson〉

- 毎週月曜日 18:00~19:00/HARU House dance Beginner
- 毎週火曜日 20:15-21:45/KAZU HIPHOP DANCE SCHOOL
- 最終水曜日 19:30-20:30/SEGA HIPHOP

〈古典戯曲を味わう会〉

国内外の古典戯曲から参加者で選んだ作品を読み、楽しむ企画です。

- お問い合わせください(通常毎月第1・3水曜日開催)
- ※太宰治「新ハムレット」他を予定
- ※参加費¥100。Zoomにて開催中。日時等変更になる場合があります。

〈Free Column〉

劇場の 片隅から

文/磯島 未来
(振付家・ダンサー)

今年に入って隔週で買っているデアゴスティーニのDVDがある。4つ目が発売されているが既に見るのは追いついていない。子どもの頃、月刊りぼんが出る日はウキウキして書店へ駆け込んでいたけれど、いまのわたしにそんなトキメキも時間もなく、気づいたら発売日なのだ。
時間の体感が子どもの頃とだいぶ違う。この不思議に謎を見出していたとき息子の小学校の先生から、40歳の1年は1/40、10歳の1年は1/10です云々という話があり数字で見て腑に落ちる。とはいえわたしは諦めずにDVDを積んでいく。



〈performer〉

川山 洋(青森市) 佐々木 瞳(十和田市)
櫻庭 怜奈(三本木高等学校附属中学校1年)
藤林 青(小中野小学校4年)

〈staff〉

照明/大里 美咲 (八戸東高校表現科3年) 舞台監督/奥寺 ナミ (八戸東高校2年)
音響/坂本 明美 (八戸市) 映像/櫻庭 煌大 (三本木高校附属中学校3年)
赤坂 優衣 (八戸東高校2年)



〈theater information〉



パフォーミングアーツ公演事業
タンツテアター公演

「Cho-Cho San 蝶々さん」

出演・振付・演出 | 岡田 希淳
演奏・作曲・演出 | Marco Girardin
【日時】2026.3.7(土) ①13:00~14:00
②17:00~18:00
3.8(日) ③13:00~14:00

※②のみ終演後アーティストトークあり
※対象 小学生以上
※入場時間:開演10分前
(入場受付は開演30分前)
【会場】はっち2F シアター2
【料金】[一般]前売 2,300円
当日 2,500円
[小学生~高校生]前売 1,000円
当日 1,500円

※全席自由席
※お車でお越しの方には
「おんでカード」100円進呈
【チケット取扱】はっち1Fインフォメーション
電話、ウェブからの事前予約
※お支払いは現金のみ
【問合せ】はっち ☎0178-22-8228
<https://hacchi.jp>

オペラ「マダム・バタフライ」でも知られる、ジョン・ルーサー・ロング原作の短編小説を基に制作された作品。

NOW
PRINTING

千葉学園高等学校演劇部自主公演

【日時】2026.3.8(日) 14:00~
【会場】SG GROUP ホール はちのへ
(八戸市公民館ホール)

【料金】無料
【問合せ】千葉学園高等学校
☎0178-43-4321



リーディングドラマ「終わった人」 中井貴一×キムラ緑子

【日時】2026.3.11(水) 16:00~
【会場】SG GROUP ホール はちのへ
(八戸市公会堂)

【料金】S席8,800/A席6,800
【問合せ】キョードー東北 ☎022-217-7788
(平日13:00-16:00、土曜10:00-12:00)

〈メンバーズカード〉

チャージ可能なプリペイドカードで、入場の際ご提示いただくとお前売料金で入場いただけます。また、どの公演でも入場料から3%値引きいたします。チャージは現金でもクレジットカードでも可能です。



〈キャッシュレス決済〉

「PayPay」「ID」他、カード払いに対応しています。

- 各詳細は080(6025)0990にお電話でご確認ください

特別寄稿

生と死の交差する世界

Kバレエ・オプト『踊る。遠野物語』 演出・振付・構成 森山開次

文／五十嵐 隆

ダンサー・熊川哲也が1999年に設立したバレエ団「Kバレエ」が2022年に立ち上げた「Kバレエ・オプト」は、多ジャンルとのコラボレーションを通じてバレエの新しい光(Opto)を生み出そうと云うダンス・プロジェクトである。今回の森山開次の演出・振付によるKバレエ・オプト『踊る。遠野物語』は柳田國男の遠野物語をモチーフに、生と死、現実と幻想が交差する世界を描く作品だ。

15世紀に生まれたバレエの歴史は自由を求める表現の歴史だった。そして重力の制約を受けていないかのような浮遊感と身体運用を美とするバレエの世界は、今回のモチーフ『遠野物語』とは真逆のベクトルを持つ世界観である。

1910年、日本民俗学の祖・柳田國男が岩手県の遠野地方に伝わる伝承・怪異・信仰などを記録、刊行した説話集『遠野物語』。山里に生きる人々の現世と幽世が交錯するその精神世界は自由でも伸びやかでもなく、文字通り「土着」。自由を求めてきたバレエがこの世界観をどう表現するか。

その矛盾を解消するために演出の森山開次が設定した演劇的仕掛けは「1945年、特攻隊員だった青年の魂が墜落した遠野の地を彷徨いながら出会う『遠野物語』の世界」と云うオリジナル設定だった。

観客は、墜落した青年の視線に自身を重ねる。主演の石橋奨也(八戸出身)やその許嫁を演じる大久保沙耶が体現するのは、モダンバレエ的な美しさ。それに対し彼らが目にする『遠野物語』の世界観は、舞踏家・磨赤兒をはじめとする大駱駝艦が体現する土に沈んでいくかのような土着的世界。対照的な両者の身体表現のギャップそのものが、遠野を彷徨う青年の体験として観客に疑似共有される(ただ、九州の基地から沖縄方面に出撃しているはずの特攻隊機がなぜか岩手の遠野上空に飛来し、墜落した。その不自然すぎる設定に違和感を抱かないわけではない)。

青年の魂は謎の少年K(歌舞伎役者・尾上眞秀)に導かれながら遠野を彷徨う。生と死の交錯する幻影の地で彼は愛しい許嫁の面影を追い、そこに山人や雪女、河童、座敷童子、オシラサマ、マヨイガなど『遠野物語』の異形の者達が次々に姿を現す。

印象に残ったシーンをいくつか紹介したい。

『遠野物語』と言えば最も有名なエピソード、馬を愛した娘の悲恋、第六十九話「オシラサマ」。馬はダンサー達によって頭部、背中、臀部に分かれて表現され、娘役の大久保沙耶が馬の背に乗って登場する。馬

と娘が心を通わせているところを目にした父(磨赤兒)は怒り、鎌で馬の頸を撥ねてしまう。だがこのシーンの見どころは「その後の父の姿」を描いたことだと思う。東北地方に伝わる信仰行事「百万遍念仏」になぞらえたダンサー達が数珠に見立てた珠を持ち、円陣を組んで磨を囲む。磨はほとんど動かない。死者の世界へ転生していくかのような妖気溢れる磨赤兒の存在感が圧巻だった。

そして最も印象に残ったのは「魂行列と神々」。常民に先導された座敷童子やオシラサマ、ゴンゲンサマといった神々の行列が静かに歩みを進める。生と死、神と人の世界が重なり合う『遠野物語』の世界感が最も視覚的に表現され、本作品における白眉ともいえるシーンに仕上がっていた。

フィナーレは岩手に伝わる伝統芸能「鹿踊」。だがここでの「両手を上げた主役の周りをシカ達が輪になって囲み、群舞する」と云う絵面だけは、どうしてもベジャールの『春の祭典』(あるいは『ポレロ』)に見えてしまったことは否めない。

バレエ(ポワント)からコンテンポラリー、舞踏、そして歌舞伎。複数の身体表現を用いて『遠野物語』の世界を再構築した今回の『踊る。遠野物語』。音楽、衣装、美術を含め、それら一つひとつは必ずしも斬新で新しい演出や表現ではなかったかもしれない。だが出演者らの化学反応が豊かな叙情性と高いエンターテインメント性を併せ持つ魅力的な舞台として結実していたことは間違いない。

美しい作品だった。

～2026年1月15日 SG GROUP ホールはちのへ



■Kバレエ・オプト『踊る。遠野物語』
2026.1.15(木)SG GROUP ホールはちのへ

●筆者近況

2月に新潟、3月は盛岡で拙作『静かなネズミは遠くまで行く』が上演されます(ちなみに八戸では2015年、高校演劇の東北大会で上演していたのでした)。全く違う土地の全然別の劇団が、偶然同じような時期に同じ作品を上演。面白いものですね。

FANSで上演・LIVEをやってみませんか?

ジャンルは問いませんので、まずはお気軽にご相談ください

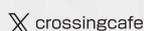
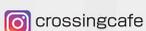


Director

田中 勉

〒031-0081 八戸市柏崎1-11-8
mobile 080(6025)0990 Fax.050(3588)8350
e-mail owner@spaceben.com

<https://spaceben.com/>



FANSってなんだ!?

小劇場「スペースベン」にて、毎週金曜日の夜7時30分から、約30分の芝居を楽しんでいただく企画です。芝居に限らずライブ・ダンス等、ジャンルの枠にとらわれず、金曜日の夜には“ここで何かおもしろい事をやっている”という場になればと思います。なお、料金は特別番組以外全て前売り500円、学生は200円です(当日100円増し)。上演の場を求めている方、刺激を求めているあなた、ご連絡お待ちしております。